

事業名：樟葉駅前広場利活用ワークショップ開催事業(その2)

実施予定日：平成21年4月～平成22年3月

実施者：「くずは駅前を面白くする検討会議」事務局
NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議

次の団体・個人で「くずは駅前を面白くする検討会議」を構成して実施

- ・NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議くずは駅前を面白くするプロジェクトチーム(事務局)
- ・枚方市 ・大阪府枚方土木事務所 ・楠葉生涯学習市民センター ・京阪電気鉄道株式会社
- ・京阪バス株式会社 ・京阪園芸株式会社 ・地域団体 ・一般市民

事業目的：

枚方市の“顔”の一つとも言える樟葉地区において、地域住民、地域事業者（交通事業者・商業事業者等）、NPO等の多様な主体が連携し、行政（枚方市・大阪府）や大学の支援の下で、駅前広場を地域の「交流と憩いの場」として継続的に活性化させるため、平成20年度に引き続き、イベントなどの実践を通じ、駅前空間を様々な主体が連携して活用・管理・運営していくための仕組みづくりに取り組む。

また、樟葉駅周辺への公共交通でのアクセス性の向上を目指し、樟葉駅周辺の交通環境改善についても平成20年度に引き続き検討を進める。

実施内容：

京阪電鉄樟葉駅は、京阪電鉄と京阪バスの一大交通結節点であり、樟葉地区の枚方市民と男山地区の八幡市民を中心に、約6万人/日の人が利用している北摂地域を代表するターミナルである。また、くずはモールなどに来る人を含めると、約10万人の人が樟葉駅前空間を利用すると推定される。一方、樟葉駅へのアクセスは、マイカー交通の増大により渋滞などの問題が生じている。

枚方市と一体となって沿線開発を進めてきた京阪電鉄では、樟葉駅前地区を重点開発地区として、『関西郊外のモデル都市』『選ばれ続ける街づくり』を目指した取り組みを続けている。

枚方市の総合計画でも、駅前に商業・公共・居住機能が複合的に集積する樟葉駅周辺は、枚方市駅周辺およびもうひとつの顔である東部地区（文化・学術機能を備えつつ緑豊かな里山風景を残す）ともども、市のまちづくりにおいて重要な地区となっている。

平成20年度は、樟葉駅前広場を単なる歩行者の通行空間として機能させるだけでなく、地域で活躍している人達の発露の場として、また訪れた人々と地域との交流の場として、“駅前広場をもっと楽しく”をテーマに、駅前の活用方策について、ワークショップを開催してきた。その中で、公共交通でのアクセス性向上策についても、検討されてきた。

駅前広場の活用策の試みとして、『くずは駅前を面白くするイベント』（平成21年3月15日実施）を、地域校区コミュニティ、小学校、PTAなど26団体の参加を得て、また、18グループのパフォーマンス出演を得て実施した。

今年度は、取り組みを継続化して日常化させるため、3/15のイベント開催時の地域住民、来訪者等へのアンケート結果も参考にしながら、以下のような視点で活動に取り組む。

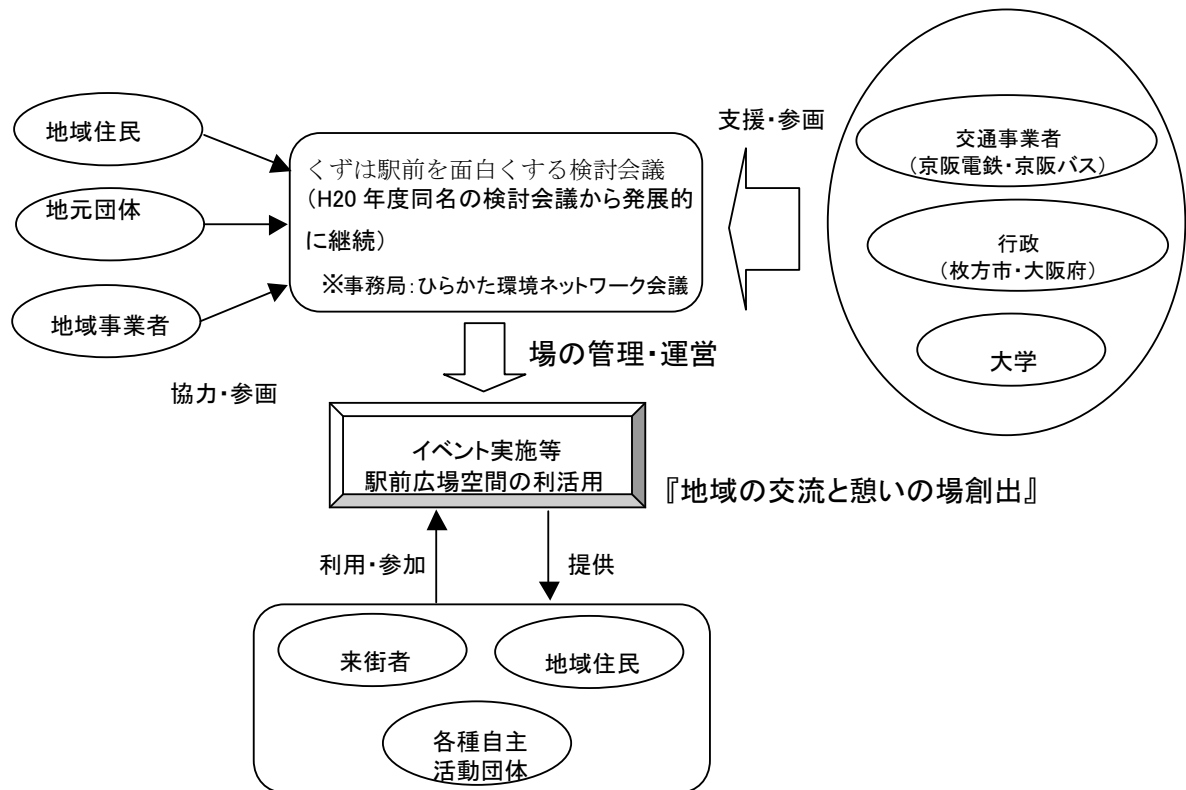
- 1) 駅前広場および広場周辺の空間が日常的に『市民の交流と憩いの場』となることを目指し、また、公共交通での樟葉駅へのアクセス性の向上を目指し、
- 2) 市民・事業者・NPO・行政による公共空間の適正な管理と活用の仕組みづくりと、樟葉駅周辺の交通環境改善のためのワークショップを継続開催し、
- 3) 定期的な情報発信・参加型のイベント、ミニイベントの仕掛けを継続する（テーマは、多様な主体による、地域コミュニティの活性化、交流促進と樟葉駅周辺の交通環境改善、環

境を活かしたまちの魅力の向上等)

3 参加対象者

地域住民（枚方市楠葉、船橋、牧野、招提地区、八幡市男山地区）約5万世帯
地域従業者（行政、交通事業者、商業施設等）、来街者全般

【主体別の事業への関わり】



日時

- 平成21年4月～平成22年2月 月1回の割合で、ワークショップ開催。
- 上記の間、定期的な情報発信・ミニイベントの仕掛けを実施。
- 平成22年3月 第2回くずは駅前を面白くするイベント実施。

場所

- ワークショップ：くずは体育文化センター、楠葉生涯学習市民センター
- 樟葉駅前を面白くするイベント：楠葉駅前広場及び周辺

事業PR

20年度支援事業において、NPO、地域住民、交通事業者、行政協働で、駅前広場の利活用について検討し、その一環で、3月15日に「くずは駅前を面白くするイベント」を実施し、地域の大勢の人の参加を得、成功を収めることが出来た。

この成果を踏まえ、21年度は、イベントなど実践を通じ、NPO、市民、事業者、行政が協働して、駅前広場の管理運営を行う仕組みづくりに取り組むと共に、樟葉駅前周辺の交通環境改善に取り組みたい。